街道小話　４０　　市町村

平成の大合併が行われてもう１０年以上もたった。未だに近くにある所なのに何処かわからず「前の〇〇と△△」が合併したというイメージで、やっとその新しい地名を理解する。

市町村の合併は、その地域地域の事情で時々行われるが、全国レベルで国の指導（補助金のえさで）のもとに積極的に行われる。明治以降３回あった。

明治の大合併	明治２２年	７０，０００	→	１６，０００
昭和の大合併	昭和３６年	１０，０００	→	３，５００
平成の大合併	平成１８年	３，２００	→	１，８００

市町村の数がこれだけ減った、昔はすごくあったという数である。
明治の大合併は、合併というより市町村制度が始まった時です。
市町村は数が変わっていますが、都道府県は変わっていません。明治の10年頃までは大変。今では考えられないような府県名が出来たり消滅したり混乱の時期でした。大阪付近では、岸和田県、堺県、高槻県などと見知らぬ県名が一時出来たりしましたが、その混乱以降は今の都道府県が不動です。

今の府県が不動以上に江戸時代は「国」が不動でした。和泉、大和、河内、伊勢、讃岐などこれらは今でも府県よりも縄張りを聞かせています。「讃岐うどん」は通じますが「香川うどん」は通じません。「出雲の神様」はお参りしますが、「島根の神様」では普通の神様です。
この「国」が何故こんなに根強いのでしょうか。答えは簡単で生活に根が深く入っている=歴史が深いということで、何と奈良・飛鳥の時代に出来た区分け「国」がずーーと変わらず使われています。（東北の一部が分割された）
「都道府県」も安定してきましたが、「国」から見るとまだ若造です。

江戸時代に「国」と一緒に使われたのが「郡」という国を分割した区割りです。今でも町村名の前に「〇〇郡」と書く区割りです。今の郡名は江戸の郡名から大きく変わっています。郡の中から「市」が勢力を増し、郡の縄張りを好き放題食い荒らしています。大阪の「西成郡」が昔あり、今の大阪駅から西すべてが区域でしたが、今は「西成区」として片隅に小さく収まっています。
逆に、滋賀県の「高島郡」は分割されて一時高島町の小さな一つの町になりましたが、平成の大合併で「高島市」として名前が勢力が復活しました。
京都では「葛野（かどの）郡」があったのですが、区名にもなれず、町名にもなれず、やっと今も使う「葛野大路」の道路名として残っている。